高齢者の生活を豊かにする ICT技術の活用について 提言書

平成２６年３月

戸田市議会　健康福祉常任委員会

１．はじめに

戸田市は若い街、将来は？　2035年には全国10位の老年人口増加率

・戸田市は、平成25年1月1日現在、平均年齢が39.6歳と埼玉県で一番低く、「若い人が多く、活気あふれる街」である。

しかし、戸田市政策研究所の研究によると、**2035年の老年人口が35,050人**と推計されており、**2005年比増加率では、全国第10位**(149.6%)にランキングされている。また**2035 年の高齢化率は 27.0%**に達すると推計され、**2005 年4月の高齢化率である 12.0%と比較すると2倍以上**に高齢化が進むと考えられ、2025 年～2030年頃には、超高齢社会の基準である21%を超えると予測される。高齢化は急速なスピードで進み、喫緊の課題である。

国の取り組み 「ICT超高齢社会構想会議」

・800万人といわれる「団塊の世代」が後期高齢者になる、いわゆる「2025年問題」が、政府の「社会保障と税一体改革」でも取り上げられている。

・2012年12月から2013年5月までは、超高齢化社会における情報通信技術(ICT)のあり方を検討する**「ICT超高齢社会構想会議」**が総務省主導のもと、「ICT成長戦略会議」と連携して開催された。その中で、ICTにより「一人ひとりが安心して元気で暮らすことのできる活力ある社会」を実現する、としている。

高齢者のために情報通信技術(ICT)を貢献させる

・高齢者の皆様のたゆまぬ努力によって、平和で市民が共に支え合う今日の戸田市の街づくりが推進できている。当委員会では、「高齢者の生活を豊かにする情報通信技術の活用について」を年間活動テーマとし、「社会を変える力」のある情報通信技術(ICT)を活用し「高齢者の方がいつまでもお元気で」いていただくことにお役にたてないか、先進地の視察や関係者との懇談を実施し研究を行ってきた次第である。

「高齢者の方々の為にICTを貢献させる」との思いで、以下提言するものである。

提言項目

1	既存システムの利用促進 戸田市緊急時連絡システム
2	新しいシステム導入の検討 島根県奥出雲町の取り組みから
3	ICTを活用した健康運動教室 新潟県見附市の取り組みから

2. 提言

①既存システムの利用促進
(戸田市緊急時連絡システム)

・新規申し込み促進

・「緊急時連絡機能」のほか「相談機能」も啓発

65歳以上の一人暮らしの人や、高齢者世帯で世帯員が病弱である場合に、安全の確保や不安を解消するため、緊急発信ができる発信機を貸与する既存のシステムである。通話料など一部利用者負担になるが、相談機能が利用できることを知らない方も多いと考えられる。「より一層の新規申し込みの促進」と「相談機能の啓発」により、本システムの利用者を広げていくことを提言する。

緊急時連絡システム案内チラシ

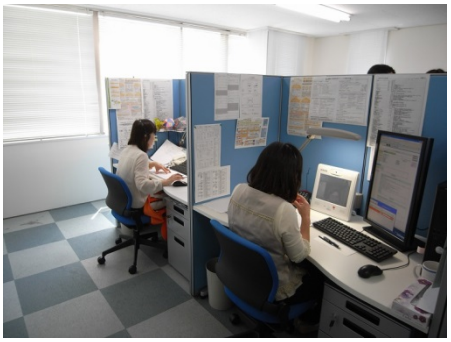
②新しいシステム導入の検討
(島根県奥出雲町の取り組みから)

・顔の見えるシステム作りの提案

奥出雲町では、テレビ電話端末とコールセンターの設置で、表情や状況がわかり、対面しているような感覚で話のできる「顔の見えるシステム」を構築している。「地域見守り」「ヘルスケア」「生活支援」などが可能になり、民生委員の負担も軽減する。本システムを参考に戸田市においても同様のシステムの導入を提言する。

・家族へのかんたんメール送信の提案

同システムでは、高齢者が簡単な操作で安否確認ができる「おはようタッチ」がある。離れている家族へメールで通知し、「家族が安心できる」新しいシステムの導入を提言する。



コールセンター

家庭用端末

遠隔地に住む家族世帯

コールセンターと光ファイバを利用したテレビ電話で接続
安否確認や相談などを実施

高齢者世帯

遠隔地に住む家族に
１日１回メールを送信
安否確認を実施

③ICTを活用した健康運動教室
(新潟県見附市の取り組みから)

・歩数計とパソコンを連動させた運動メニューづくり

新潟県見附市では、空き店舗を活用し、健康運動教室を実施している。体力年齢の若返りによる健康増進を目指すほか、高原ウォーキングなどのイベントが開催され、仲間づくりによる社会参加の効果もある取り組みである。専用の歩数計(5,000円)を購入してもらい、教室に備えつけられたパソコンと連動させることで、運動メニューの作成や運動の成果の記録を実施している。将来的には、医療費の抑制も期待できる。空き店舗や、スポーツセンター・福祉保健センターの一部を活用した、健康運動教室の導入を提言する。

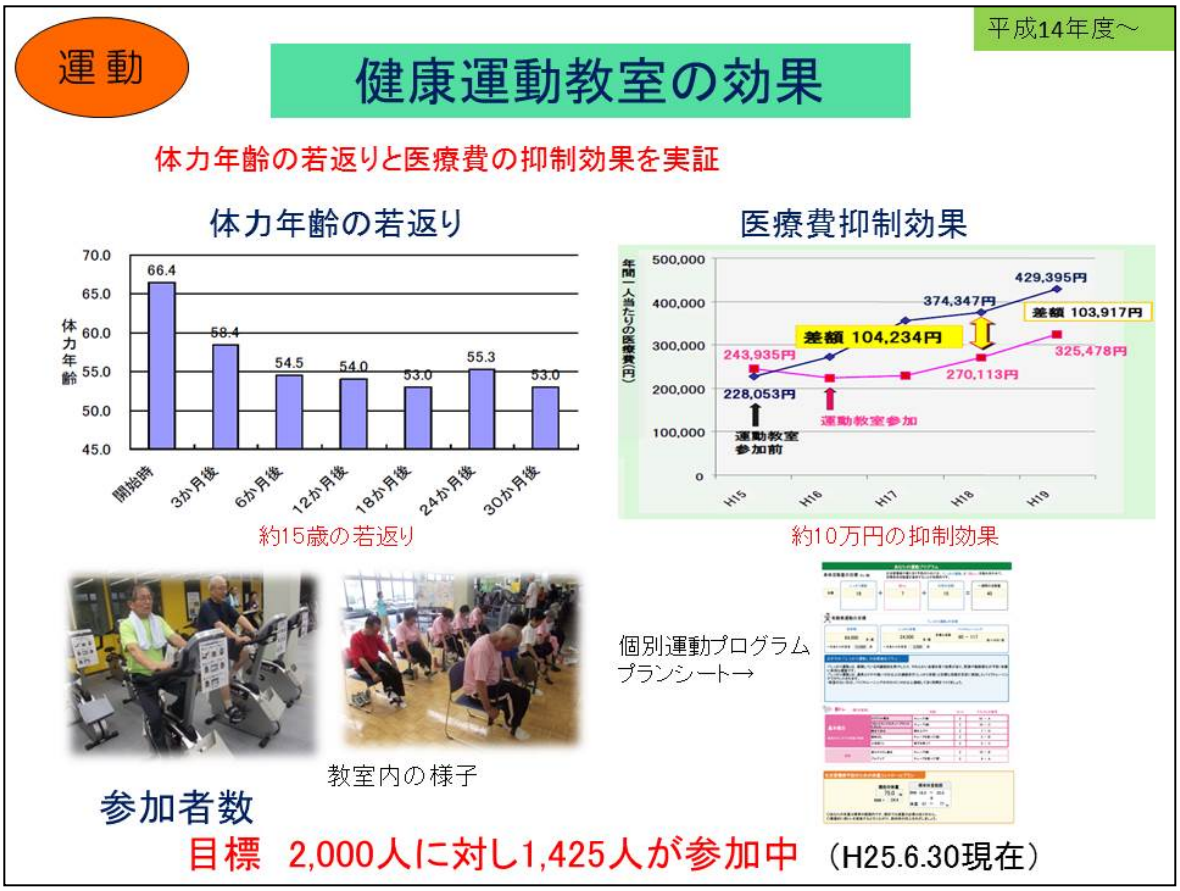


図:見附市における健康運動教室の効果

3. おわりに

急速に高齢化が進む中、高齢者が安心・安全で、いつまでも楽しく、元気で暮らすことのできる社会の構築が求められている。「高齢者のためのICT」という発想に立てば、高齢者の立場に立った「より使いやすい」インターフェイスなどを、現場の声に合わせて研究し続けることも大事になる。

当委員会では、本提言に現場からの意見を取り入れるため、民生委員協議会との懇談会を実施した。民生委員からは「顔を合わせて信頼関係を築くことが大事」との意見があった。ICTは、人の力を補い、困っていることが解消される「人を助けるツール」である。住民や地域の取り組みと連携し、利用者や関係者の意見、要望をできる限り反映できるような、「主役は市民」が根幹にあるシステムであれば、必ず生活をより便利に、より豊かにしてくれるはずである。

2020年には、買い物のほとんどをインターネット経由の宅配サービスで済ませる家庭が一般的化すると考えられている。

「情報インフラから生活インフラ」へ、今後も様々な場面で可能性が広がってくる。

執行部においては本提言を踏まえ、高齢者の生活を豊かにする情報通信技術の推進を進めていただくよう要望する。

民生委員と健康福祉常任委員との懇談会
（終了後、議場にて撮影）

健康福祉常任委員会			
委員長	遠藤英樹	副委員長	岡嵜郁子
委　員	石井民雄	委　員	高橋秀樹
委　員	峯岸義雄	委　員	竹内正明
委　員	金野桃子		

やさしいまちに、なりたい。

戸田市議会健康福祉常任委員会

戸田市議会　検索

スマートフォンはこちらから→